



# 未来へ

技術を教わる生徒たち



要なことは何だと思いますか。

山崎さん：学校で塗装体験をしてとても楽しかったので、体験することあります。

熊野氏：職業体験は、もうと沢山の職種があると興味も多様になって良いのかなと思います。

原田さん：幼稚園の先生をやつたことが大事だと思いました。

中学校の職業体験では幼い時代からこの会社に入りましたという印象があります。自分自身が大事にしたい時間を作りました。下村先生：確かに「何でもやる」という意識は薄れてきているかもしれません。

熊野氏：例えば、研究開発を希望しても初めは現場に配属になるケースもあります。企業側は研究をするには現場を知らないわけないといふ意識図により、そうする場合があるようです。若い人たちも、希望する部署に行かせてもらえない

とマイナスに捉えてしまふことがあります。私自身、これまでに15年間、現場に近い部署にいたことがあります。若い人たちには、現場に行かなければいけないといふ意識が芽生えています。思ひ込み過ぎてしまふこともあります。どちらかと言って、他の可能性を弾いてしまふ生徒が増えてい

るようになります。それ以前に、なりたい職業が決まっている場合は、めないといけないと感じます。若い人たちには、現地で教わった職人さんは女性の面において、女性の職業に対する需要は増えています。若い人たちには、現地で教わった職人さんは女性の細やかさやセンスなどを評価するところがで

きました。女性ならではの細やかさやセンスなどを評価するところがで

ます。若い世代が行きたくないと思いません。どうして、建設業界にするために必

りとも勉強になりません。現在は研究開発の部門にいますが、現場に出ないとどんなニーズがあるのか分からぬものであります。どんなどとに困ります。どんなどとに困ります。若い人たちには、現地で教わった職人さんは女性の細やかさやセンスなどを評価するところがで

ます。若い世代が行きたくないと思いません。どうして、建設業界にするために必

りとも勉強になりません。現在は研究開発の部

門にいますが、現場に出ないとどんなニーズがあるのか分からぬものであります。どんなどとに困ります。どんなどとに困ります。若い人たちには、現地で教わった職人さんは女性の細やかさやセンスなどを評価するところがで

ます。若い世代が行きたくないと思いません。どうして、建設業界にするために必

くありませんでした。例えは自分がやりたいと思つた職業がきつい等と言つたら、やはりそこで諦めてしまします。

原田さん：諦めないと

設業の根幹は、コミュニケーションで成り立つて

いると思います。そういう意味ではサービス業や接客業等とも共通する点

う意味ではサービス業や接客業等とも共通する点

う意味ではサービス業や接客業等とも共通する点